

10月

カトリック麹町教会



マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

イエスにつながり 互いを受け入れ 御父の家へ ともに歩もう

管区長就任のご挨拶

イエズス会日本管区長 佐久間 勤

聖イグナチオ教会の皆様、6月1日をもってレンゾ・デ・ルカ前管区長の後を引き継ぎました。普段は教会に隣接する岐部ホールにいますが、管区長という職務は基本裏方ですので、皆様に直接お目にかかる機会は少ないかと思えます。聖イグナチオ教会はイエズス会にとって特別な使徒職の場です。聖霊の導きのうちに教会の活動が活きいきと発展しますよう、日々、お祈りしております。

イエズス会が担当する小教区として

75年以上も前のことです。が、戦災で焼失した旧麹町教会が上智大学内の小聖



堂などを仮聖堂として再出発したことをきっかけに、1947年に小教区が教皇庁によってイエズス会に委ねられることとなり、大学に隣接した土地に聖堂を建設し、麹町教会を「永久に修道会に委託された教区教会」とすることが定まりました。イエズス会創立者の聖イグナチオ・デ・ロヨラを教会名として戴くようになつたのも、このような経緯からです。

聖イグナチオ教会はイエズス会が担当する小教区です。ので、創立者聖イグナチオの精神をこの世界の中で生きているという使命も、イエズス会と共有しています。では今という時に聖イグナチオ教会にどのようなことが期待されているでしょうか。

イエズス会全体として取り組む「4つの使徒職の方向性」が2019年に総長アルトゥーロ・ソーサ神父

のもとで公表されました。4つの方向性とは、(1)霊操および識別をとおして神への道を示す、(2)和解と正義のミッション、つまり貧しい人々や世界から排除された人々、人間としての尊厳が侵害された人々とともに歩む、(3)希望に満ちた未来の創造において若い人々とともに歩む、(4)「ともに暮らす家」(地球)への配慮と世話を協働しておこなう、という4つです。

識別し、ともに歩む

(2)、(3)、(4)の方向性は、聖イグナチオ教会でもすでに多くの活動をおこなって長年取り組んできたことと同じ方向を向いています。それをさらに現代にふさわしく、新たに生かさうとすれば、これら3つの方向性に見える共通点がヒントになると思います。それは「ともに」ということです。「協働」も「ともに働く」という事ですから、(2)から(4)は「ともに歩む」、「ともに働く」、「つまり」ともに」ということで共通しています。知らないことを教えてやろうとか、正しい方向に引っ張ってやろう

とか、上から目線で人々と関わるのではなく、現代の人々の現実寄り添うことから始めて、ともに歩みながら、より善い世界を目指すのです。

より善いものを目指す、つまりラテン語で「マジス」を目指すためには、いくつもの善いものの中から真に善いものを選ぶこと、つまり「識別」がどうしても必要になります。それが4つの方向性の(1)として出てきます。これが他の3つの方向性の基礎となります。教皇フランシスコも「識別」について一般謁見の機会にシリーズで説明しておられます。共同体として「識別」できるような教会となることが期待されています。

教会報 MAGIS 10月号

- † イグナチアンニュースデー 2023 P2~3
- † 教会学校 ~夏キャンプ解禁!~ P4
- † 教会活動グループ便り ⑦ P5
- † 連載 光をつないで ⑨ P6
- † Family of St. Ignatius ~英語圏から~ P7

【10月の共同祈願】

10月に開催されるシノドスのために祈ります。
「2人または3人が
わたしの名によって集まるところには
わたしもその中にいる」
とイエスさまはおっしゃいました。
聖イグナチオ教会に集う私たちが、
神の民として共に歩む道を見いだせますように。

【ミッション2030 -前文-】

私たち聖イグナチオ教会は、
祈りに基づく使徒的共同体を生きていきます。
現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、
環境破壊など、未来に希望を見出しにくい
反福音的なものに脅かされています。
それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、
いつくしみの扉を開いていきます。
私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、
貧しい人や弱い人の声を聴き、
皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、老いも若きも)、
福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

イグナチアンユースデー2023

ワールドユースデーリスボン大会より帰国
神の恵みに満たされて

9月3日(日)のイグナチアンユースデーは、青年信徒たちが参加したワールドユースデー(以下WYD)リスボン大会(8月1〜6日に開催)をテーマに行われました。感謝ミサから始まり、報告会とディスカッション、国際青年会(日本語、英語圏、インドネシア語、ベトナム語)による聖体賛美式と交流会・パーティーと熱気あふれる一日になりました。

第一部

WYDリスボン大会
感謝ミサ

主聖堂での10時のミサにて、ハビエル・ガラダ神父司式のもと感謝ミサが行われました。ミサの



▶森見太郎助祭(9月23日に司祭叙階)と教会巡礼派遣団。ポルトにて

終わりに、青年信徒2名が世界中から集まったおおよそ150万人の信徒と多くの体験を共有し、たくさんの恵みをいただいたことの報告を受けて、高祖敏明主任司祭は「この経験が世界と私たちがつながっていることを確認するきっかけとなるよう、そして、信仰と祈りの深まりを若者とともにあざかりたいと思います」と話され、感謝と祝福の拍手を送りました。



▶後から合流したファレリ・アウレリアさん。ポルトにて

WYD報告会

11時半からはヨセフホールにて、聖イグナチオ教会巡礼派遣団、イエズス会「マジス」巡礼団、清泉女学院派遣団それぞれが写真や映像を用いながら、出発から帰国までの報告を行いました。最後にWYDのテーマソングを報告会の参加者とともに歌い、未来への希望を新たにしました。

紀藤香耶

(土曜学校リーダー)

ずっと憧れだったWYDで多くの得難い経験をしました。今回のリスボン大会は150万人ものクリスチャンが集い、街は各国の歌や踊りにあふれたお祭り状態でした。その中で多くの国の人々と交流し、日本の皆と楽しい日々を過ごしました。

一方でWYDは楽しいことばかりではありません。自分と神さまの関係を見失いそうになる困難な時も多くありました。神さまとたくさん向き合う時間があったからこそ、神さまの偉大さを痛感して自分の

不甲斐なさを思い知り隠れたいと思ってしまうのです。このことは過酷な環境と、その他の困難も相まって何度も私をくじけさせました。

しかし、まわりの皆からの助けがあつて何度も立ち上がる事ができました。もちろん日本人からだけではありません。どこにいてもクリスチャンは家族であつて、教会とは世界なのだ実感できました。これからも神さまと共に、進み続ける世界教会を支えることができますように。派遣してくださった聖イグナチオ教会の皆さまに心から感謝いたします。

宇留野真人(国際青年会)

WYD本大会の前にコインブラ教区に6日間(7月26〜31日)滞在しました。そこでは様々なアクティビティや交流を通して、ホストファミリーや地元の方、他の国の方と出会い、文化交流や信仰を分かち合いました。コインブラでの日々の中で特に印象に残ったのは、ボランティアの方、地元の方の優しさや心の温かさ



▲前夜祭、記念ミサには700人以上の司教、約1万人の司祭が集った

です。朝早く準備を始め、昼には暑い中参加者の案内や誘導を、夜遅くには片づけを、それでも笑顔を決やさず、ずっと楽しそうにしています。

本大会では3日間のWYD（カテケージス）、ミサやイベントに参加し、8月5日には徒歩巡礼（約4時間）、徹夜の祈り、そして野宿をしました。翌日は教皇様の閉会ミサの後、私たちが泊まっていた場所へ歩いて帰り、ポルトに行く準備をしました。本大会で一番印象的だったのは、駅や電車内、街中や会場でもいろいろな国の方に声をかけられ交流ができたことです。神の力と愛を皆さんを通して感じました。ボラ

ンティアの方々だけではなく、参加者の皆さんからも感じました。

第二部

WYD参加者による ディスカッション

13時半よりヨセフホールにて、「WYDRリスボン大会の恵みをどのように活かすか」、次世代に伝えていくか」をテーマに参加者による分かち合いが行われました。

桑田早綺

（元日曜学校リーダー）

第二部ではWYD参加者によるディスカッションが行われました。聖イグナチオ教会巡礼派遣団、イエズス会「マジス」巡礼団、セルヴィ・エヴァンジェリーからの参加者など25名程度が、数人ずつのグループに分かれ、WYDで受けた恵みと



▶8月4日十字架の道行が始まる前のフランシスコ教皇

今後それらを教会にどう活かしていくかの考えを分かち合いました。

最後に、グループで話し合った「次世代にどうつなげていくか、どんな教会を作っていきたいか」という思いを、その後の聖体賛美式で奉納するために付せんに記しました。分かち合いでは各グループに、神父様、シスター、助祭の方々が入ってくださり、普段は伝えられないような互いの意見に触れ、考えることができた実りのある時間となりました。

第三部

聖体賛美式と 交流会・パーティー

17時半よりマリア聖堂にて、高祖神父司式による聖体賛美式が行われました。オンライン配信も行われ、リスボンでの閉会ミサ前夜祭の聖体賛美式を思い起こしながら、改めてWYDを振り返りました。その後、19時15分よりヨセフホールでの交流会では、担当司祭と青年信徒一同が集い、楽しいひとときを過ごしました。



岩崎華子

（日曜学校リーダー）

聖体賛美式では、祈りと歌の中で式が進んでいきました。教皇がWYD期間中にくださったお言葉やWYDでよく歌われた歌も織り混ぜられており、自らの信仰を見つめたWYDを振り返りながら、さらに神さまと向き合う時間となりました。また、第二部の分かち合いで得た自身の思いを書いた紙を、聖イグナチオ教会の模型とともに奉納し、教会の一員としての決意を新たにしました。

静かな時間から一転、その後は皆で交流会を行いました。普段関わりの少ない信徒や神父様とも、WYDという話題や知り合いを介

して親交を深めたり、当日お誕生日だった人をお祝したりと和やかなひとときを過ごしました。



WYD2023 リスボン大会 献金報告と御礼

当教会若手信徒をWYDリスボン大会に派遣するための献金活動を1月15日から8月6日まで行い、信徒の皆様より1,146,942円の献金をいただきました。皆様のご支援とお祈りに厚く御礼を申し上げます。

WYD2023 リスボン大会巡礼派遣団一同
WYD2023 リスボン大会派遣準備委員会

教会学校

さあ、いよいよ解禁だ！
教会学校の夏キャンプ

約3年半にわたる新型コロナウイルス感染症の影響も落ち着き、今年はずべてのグループで工夫をこらした企画を実施することができました。各リーダーからの報告をご紹介します。

●土曜学校
みんなでギューギュー!!

土曜学校は、7月29〜31日の3日間、聖心会裾野マリア修道院(黙想・山の家)で夏キャンプを行いました。コロナ禍のなかで実施した昨年と比べていろいろなことが緩和され「みんなでギューギュー!!さあ行こう!!」をテーマ



▲朝の会でテーマソング合唱



マに花火や水イベント、バーベキューなどを行い、みんなが楽しく過ごすことができました。マスクを外して、素顔のまま子どもたちと笑い合えたことが夏の思い出となりました。関係者の皆さまに感謝いたします。

土曜学校リーダー
みつき(松本樹郎)

●日曜学校
自分だけの何かを探して

日曜学校では、8月16〜17日に「みつけよう〜自分だけの〇〇〜」をテーマに教会とその周辺で泊2日の夏キャンプを行いました。台風のため大幅な変更となりましたが、開催できたことに感謝します。



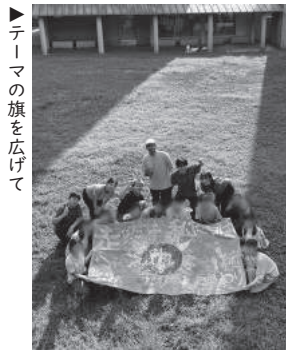
▶天気を気にしながら、シートの上で食事

●中学生会
走り出せ!!「ひまわり組」

花火・すいか割り・バーベキューなど、夏ならではのイベントの他、子どもたちのアイデアで班ごとの出し物や旗のペイント、カレー作りも実施。子どもたちが何かを「みつけ」られる、楽しいイベントとなったことを願います。

日曜学校リーダー
かこ(岩崎華子)

中学生会では8月12日〜14日に4年ぶりの夏キャンプを行いました。水鉄砲を使ったイベントや夜の肝試し、よつば山荘(雙葉山荘、以下同じ)内の落ち葉を使用したたき染め、ミサや分かち合いなど盛りだくさんでした。テーマ「走り出せ! 私たちはひまわり組」のように、中学生それぞれがぐんと成長できたと思います。



▶テーマの旗を広げて

泊3日に短縮しての実施でしたが、無事に過ごせたのは皆さまのお陰です。この場を借りてお礼申し上げます。

中学生会リーダー
あいこ(岡愛子)

●高校生会
全力で楽しんだ夏キャンプ

高校生会は4年ぶりによつば山荘で夏キャンプを行うことができました。

出発一週間前に台風の情報が入りましたが、当日は晴れの日が続きました。楽しむことができました。

水遊び、花火、有志発表会などを全力で楽しみ、キャンプファイアや祈りの時間などにさまざまな思いを寄せ、全員から「楽しかった!」という声が聞かれ、また帰りが近づくと「帰りたい!」という声も聞かれました。



▲山荘まで布団を運んで

い!という声もちらほら。それほどみんなの心の中にたくさん思い出を作れたのだと思います。

高校生会リーダー
ぴの(八木さくら)

●侍者会
初めてのよつば山荘で

侍者会は、8月17日〜19日の2泊3日によつば山荘にて4年ぶりの夏キャンプを実施しました。前回まであきる野教会で行っていたので、初めてのよつば山荘での夏キャンプでした。

参加者は6名と少人数でしたが、リーダー・ヘルパーと一緒にミサや授業の他、水遊び・花火・スイカ割りなどの夏らしい遊びに加え、無しのパンを作るなど、楽しく充実した3日間を過ごすことができました。

侍者会リーダー
えれな(相葉瑛玲菜)



▲4年ぶりのスイカ割り

活動グループ便り ⑦

各活動グループから、現在の活動状況の報告です

メンズクワイア

「キリストに向かう祈り」を
ご一緒に…参加者募集中!

メンズクワイアは2016年10月に活動開始した男性の聖歌歌唱グループです。当初は定期的に集まり歌っているだけでしたが、図らずも当時のミッション2030促進チームからお声がけいただいたことを機に、教会行事で演奏の機会を頂くようになりました。

こうして、2019年11月に当教会の活動グループとして認可を頂き、その勢いで活動拡大の展望を描いていた矢先、新型コロナウイルスの感染拡大によって活動休止を余儀なくされました。

2022年に入り、当教会首席オルガニストの浅井寛子さんから、イグナチオ年にちなみ「キリストに向かう祈り」(アニメ・クリステイ)を

テキストに男声合唱曲を作りたいとお話がありました。浅井さんの新曲を世に出したい一心でお引き受けいたしました。

コロナ禍ではライブで披露する機会を作れなかったため、まずは少人数のアンサンブルでの録音を公開させていただきました。

献堂25周年に向け、大人数での「キリストに向かう祈り」をライブでご披露したく、男性諸氏のご参加をお待ちしております。

【キリストに向かう祈り】

<https://youtube.com/watch?v=tupMSY>

連絡先: menschoir2030@yahoo.co.jp



祈り URL



連絡先



※活動グループの活動内容・スケジュール等は変更になることがあります。また講座に初めて参加される方は、講座担当者か教会事務室にご確認ください。

ヤングオールド

若々しい精神の

シニア世代が集う

催し物はどなたでも!

「ヤングオールド」はルイス・カンガス神父様、アルフォンス・デーケン神父様を顧問に1982年に発足し、「年を取っても精神は若々しく」をモットーとして、シニア世代を中心に集いの場を提供しています。

活動として1年に6回ほど映画会を行い、その他は懇親会、クリスマスコンサートで、ヨセフホールにて開催しています。

コロナウイルスのまん延により3年以上活動できませんでした。今年4月から映画会を再開しています。

「ヤングオールド」の映画会はキリスト教を題材とした映画を中心に、古い名作映画なども上映しています。

懇親会は神父様をはじめ、講師の方にシニア世代の生活に役立つ講話をしていただいています。

クリスマスコンサートは当教会の音楽家を中心に演奏家を数名お招きし、クリスマス

スにふさわしい聖歌や楽曲の演奏が行われます。

年齢を重ねても信仰、知識を深め、優しさといったわりの中、互いに交流を深められますように、楽しい集いの場となりますようにと願っています。

これらの「ヤングオールド」の催し物は教会報「マジス」と信徒会館内掲示板、チラシでお知らせしています。

またそれぞれの催し物はシニア世代の方だけでなく、どなたでも来場できますので、どうぞお気軽にお越しください。



グエン・タン・ニャー神父 入門講座

聖書を通して

イエスに出会い

イエスを知り

イエスに従い

信仰を深めます

キリスト教の基本を学びたい方、洗礼を希望する方、洗礼から3年未満の方であれば、どなたでも参加でき



ます。

聖書をゆっくり読み、難しいところ、ポイントとなるところに解説を加え、聖書を通じて神であるイエスを探し求めて行きます。希望者には、洗礼準備も行い、クリスマスまたは復活祭には洗礼式を行います。講座受講生には、毎回の講義の文字起こし資料を次回の講座で配付し、復習に役立てていただきます。

まずは、直接、会場にいらしてください。予約は不要です。お問い合わせは、

mondycourse-stignatus@

googlegroups.com

より、メールで

お寄せください。



日時: 毎週月曜日

19時~20時30分

場所: 信徒会館301

連載 光をつないで ⑨ 神父を慕い、仲間と集った日々

「光をつないで」は、当教会の青年信徒が聞き手となり、信仰上の諸先輩からその人生と神との交わりについての話を聞くことで、神とともにこれからの人生を歩むためのヒントを得ることを目的とした連載です。9回目は、当教会信徒フランシスコ・ザビエルさん（78歳）に伺いました。

※語り手の名前は洗礼名

——教会のある街で育ったと伺いました。

はい。九州出身で、私が通っていた小学校の目の前にカトリック教会が建っており、よく外観を写生して過ごしました。周囲の大人から「ひとりて教会に行つてはいけません」と言われていたので、中に入ることはついに



▶愛読書の『呼吸と共に祈る ロザリオ—日本の唱え方—』と『人間とは何か 人類学が教えること』いつも持ち歩いているミニロザリオ

ありませんでした。外国人の神父が向こうから歩いてくるのが見えた時には、走って逃げました。彼らは孤児を引き取って養育している

と聞きました。商店街の片隅で傷痍軍人がギターやアコーディオンを弾き、戦災孤児を題材とした映画に涙を流す、そんな戦後の雰囲気の中で育ちました。

「東洋一の学生寮」に入寮して

英語の勉強を深めたかった私は、外国語学部が創設されたばかりの上智大学に入寮し、構内の学生寮に入寮しました。立派な5階建ての寮で、当時学生寮としては東洋一の規模だと言われていました。

入学当初は構内を歩いている外国人の多さに驚き、

ネイティブスピーカーの教授たちによる英語の授業では、何を宿題に出されたのかさえわかりませんでした。夏休みに入る前、クラスメートと担任の教授とともに、聖イグナチオ教会の昔の聖堂の前で集合写真を撮りました。その頃になってやっと、ここがカトリックの大学で、外国人の教授たちは神父であつたと知りました。

——そこからカトリックの教えにひかれ始めたのでしょうか？

いいえ、当時は実証主義こそが正義だ、といったような時代で、私は神がいるということについても懐疑的でした。しかし反対するにしても、まずは相手の考えを知ってからでなくてはと思い、友人とともに神父が開いている勉強会に出席し始めました。様々な質問をして、半年が経つ頃には「神がいることが不思議でない」と、ストンと胸に入ってきました。その年のクリスマスの前に受洗しました。

受洗しても、自分の嫌なところが何一つ変わらない

ことが不思議でした。そのことを周囲に相談すると、一朝一夕で変わるはずがないと笑われました。それはその通りでした。

4年間の寮生活ではいろいろな経験をしました。早朝ミサでの侍者、夜中に舎監の神父に悩みを打ち明けたこと、月一回の懇親会で、社会人の先輩方が、社会の中で信仰とどう向き合っているのかについて分かち合ってくれたこと……。就職してからは、日曜日になまにミサに与るくらいでしたが、大学で教えていただいた祈りをずっと祈ってきました。

旧友との約束を果たした先に

20年近く前、大学時代の親友に昼食に誘われ、ガンを患っていることを打ち明けられました。そして「自分が亡くなったら教会で葬式を挙げてほしい。自分の他に家族にカトリックがいないから、お前に頼む」と言われました。やがてご家族から彼が危篤だと連絡が入り、神父と2人で電車を乗り継ぎ、病者の塗油に赴きました。塗油のあと、友人の症状は落ち着き、その日は静

かな夜をすごしたと、後には奥様から伺いました。そうして一日経ち、彼は帰天しました。

葬儀の後、彼が「自分は退職した後は教会の活動を中心にやっていきたい」と言っていたことがしきりに思い出され、定年退職後、私は今日に至るまで教会で奉仕活動のお手伝いをするようになっています。



敗戦後、米軍の従軍司祭が上智大学を訪れ、必要な食料や物資はあるか大学のイエズス会員に尋ねたところ、「優れた若い人材を送ってください」と頼まれたという。それに応える形でたくさんの若いイエズス会員が上智大学に派遣され、一つの時代が築かれた。

「熱意に燃えた若い神父がたくさんいた。神父様、なんて呼んだことがなくて、〇さんとあだ名で呼んでいた」と懐かしむフランシスコ・ザビエルさんの目に、国籍や立場を超えて、当時の教授と学生たちの間に育まれた兄弟愛を垣間見た思いがした。





Family of St. Ignatius

～英語圏から～

こんにちは! 10月に入り、涼しい日が続くといいですね!

英語センターの夏は、いろいろな動きがありました。English Bulletin (英語圏共同体の会報) 8・9月号をぜひご覧ください。そして、ワールドユースデーと子どもたちのサマーキャンプのカラー写真をお楽しみください。この号では、今年も教会年次報告会の模様を紹介し、主任司祭・助任司祭が伝える重要な事柄を、日本語を話さない人たちにも知って貰えるようにしました(教会報『MAGIS』8・9月合併号2～3ページもご覧ください)。私たちは、この教会、そしてカトリック教会全体のニュースやイベントを、English Bulletinにもっともつと含めていきたいと考えています。

現在、教会が献堂25周年を迎えるにあたり、シノドス的な精神で一緒になって働きたいという願いが高まっています。典礼の準備から、文化的なプログラム、主要な言語グループだけでなくより小規模なコミュニティにも手を差し伸べることで、そして若者や子どもたちをもっと巻き込むこと。実際に、私たちの共同体の子どもたちの何人かが、献堂25周年記念事業シンボルマークの募集に応募しました。日曜学校には2つの文化をもつ子どもたちが増え、新たにインドやスリランカからの人たちが来ています。オチョア神父が言ったことを思い出します。「この教会は多様性に恵まれています。それが失われるのではなく、さらに強化されるように祈りましょう」

(シスター フロール・フロレーセ)

●宣教司牧評議会からのお知らせ●

(9月7日開催)

献堂25周年記念事業の実行委員会が9月から動き始めました。献堂25周年記念事業は、単発・一過性のもではなく、2024年度の1年間をかけて、さらにその先に繋がっていくように、様々な教会行事とも関連付けながら進めていきます。実行委員会は、記録・記念ミサ・イベント・インターナショナル・若者の5チームを組織して、連携を取りながら各行事の実施に向けて準備してまいります。

ミッション 2030 黙想と分かち合い
～祈り・つたえ・つながり・ともに歩む～
小さな分かち合い

「あなたの隣人はだれですか～
『善いサマリア人』を手掛かりに」

開催日時: 10月22日(日) 11:15～12:40
場所: 信徒会館203
プログラム: ①シスター野本佳子の講話
②黙想
③分かち合い

*詳細は教会ホームページ、ポスター・チラシでご確認ください。

●教会祭 10月8日(日)●

テーマ:「さあ、ともに歩もう ～25周年、そしてその先へ～」

11:00 インターナショナルミサ(場所: 主聖堂よりマリア聖堂他へ配信)
各言語共同体でミサ曲・朗読・共同祈願などを担当し、一つになって祈ります。

* 8:30・10:00のミサはありません。

12:30 イベント(場所: 主聖堂、芝生、ヨセフホール他)
内容: 献堂25周年記念事業シンボルマーク発表、シノドスを学ぶシンポジウム、ワールドユースデー帰国報告会、各言語共同体による歌や踊り、展示(シンボルマーク応募作品、教会学校の子どもの絵、献堂関連資料等)、縁日、読み聞かせ

*プログラムの詳細は、教会ホームページをご覧ください。

●財務報告●

8月13日(日) 平和旬間2023「ミャンマーの子どもたちのため・特別献金」 合計869,022円は、東京教区ミャンマー委員会を通じてミャンマーの教会へ届けられます。

●イエズス会司祭叙階式●

9月23日(土)、イエズス会の森晃太郎助祭、渡辺徹郎助祭が司祭に叙階されました。皆さま、お二人のこれからの活躍をお祈りください。

訃報 (R.I.P.) ハイメ・フェルナンデス神父

8月17日(木)上智大学SJハウスにて帰天されました。85歳。葬儀は8月23日(水)、聖イグナチオ教会で執り行われました。

フェルナンデス神父様は長年上智大学でイスパニア文学の研究をされながら、聖イグナチオ教会スペイン語圏にて司牧活動、告解等霊的指導をされました。

略歴

- 1938年7月23日 スペイン、レオンに生まれる
- 1956年9月26日 イエズス会入会
- 1965年2月25日 来日
- 1971年3月13日 司祭叙階(東京)
- 1972年～1977年 イスパニア文学の研究(マドリッド、東京)
- 1978年～2009年 上智大学でイスパニア文学を教える
- 1989年～1993年 上智大学図書館長
- 1990年～1993年 上智大学イスパニア研究センター所長
- 2009年～ イスパニア文学の研究、司牧活動
- 2023年8月17日 帰天(SJハウス)



10月の典礼と行事

1 (日) 年間第26主日	教勢調査 日本語ミサと外国語ミサ
4 (水)	『社会問題とカトリック教会の考え 2023年度連続セミナー』 「シノドス」ともに歩む教会を目指して 18:30 ヨセフホール シノドスの霊性② -MagisとWYDを通して体験したシノダリティ- 講師：酒井陽介神父と青年たち
6 (金) 初金曜日	祈りの集い 19:00
8 (日) 年間第27主日	教会祭 (インターナショナルミサ 11:00、イベント 12:30)
11 (水)	傾聴ルーム 11:15～15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00ミサ後
15 (日) 年間第28主日	日曜サロン 11:00～12:30 ヨセフホール
18 (水)	クリプタに安置され10月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 『社会問題とカトリック教会の考え 2023年度連続セミナー』 「シノドス」ともに歩む教会を目指して 18:30 ヨセフホール シノドス対話の実践② キリスト者は誰もが宣教の場に触れている 「宣教のための姉妹と兄弟」(大陸ステージ文書 3-2) 講師：原敬子氏、内田正氏 他 シノダるチーム
21 (土)	長寿の集い 14:00
22 (日) 年間第29主日	幼児洗礼式 (第2回) 10:00ミサ 世界宣教の日・献金 ミッション2030 黙想と分かち合い 11:15 信徒会館203
25 (水)	傾聴ルーム 11:15～15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00ミサ後
26 (木)	ヤングオールド映画会 「屋根の上のバイオリン弾き」 13:00 ヨセフホール
29 (日) 年間第30主日	結婚感謝ミサ 10:00 日曜サロン、ミニオリエンテーション 11:00～12:30 ヨセフホール

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

主任司祭：高祖 敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニノ・オチョア
柴田 潔

協力司祭：ヘネロソ・フローレス
ハビエル・ガラルダ
関根 悦雄

マヌエル・シルゴ
シスター：イベッテ・サンチェス
(セントロ・ロヨラ)

フロール・フロレーセ
(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel
7:00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel
土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00 (English) /13:30 (Español) /
15:00 (Việt Nam)

【月の第1日曜日 1st Sunday】
Our Lady's Chapel
12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

カトリック麹町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102-0083
千代田区麹町 6-5-1
TEL 03-3263-4584
FAX 03-3263-4585
<http://www.ignatius.gr.jp>



ホームページ



フェイスブック

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

*本文中の役職名等は、寄稿もしくは取材時のものです。